明けぬれば暮るるものとは
知りながらなほうらめしき
朝ぼらけかな

中一二三

夜が明けてしまうと、やがて日は暮れるものとは知っていますが、それでもやはり恨めしく思われる夜明けでありますよ。
（百人一首五二番　藤原道信朝臣）

書道総研